

音楽－1

「学校・アート・出会いプロジェクト」実施メニュー【基本案】

* 内容は、事前打合せを行い各学校の状況に応じて変更を加えていきます。

■基本情報

ジャンル	音楽（音楽基礎）		
対象となる学年	小学校 1、2、3、4、5、6 支援学級		
対象となる科目（例）	音楽		
実施可能地域	府内全域		
実施回数	2～3回程度	1回の所要時間	45分
実施可能人数	クラス単位（規模に応じて、クラス合同も可）		
実施団体 （個人の場合は講師名）	団体名 加藤 晴子 代表者名 担当者名		
連絡先所在地等	〒700-0985 岡山市北区厚生町2-18-3 TEL/ 086-234-5013（携帯080-6324-5013） FAX/ Email/ kurarasc@star.bbexcite.jp		
団体、講師のプロフィール	<p>愛知教育大学大学院教育学研究科修了，兵庫教育大学連合学校教育学研究科教科教育実践学専攻終了，博士（学校教育学）。くらしき作陽大学非常勤講師を経て，岐阜聖徳学園大学教授，令和2年3月定年退職。専門：音楽教育，声楽。名古屋二期会会員。</p> <p>現在，子どもたちの音楽活動の指導も行い，子どもの成長と音楽の関りの視点から指導法開発に実践的に取り組んでいる。歌と音楽教育を有機的に関連させた独自の視点から継続して進めてきた研究をベースに，歌の生成や表現について学際的な研究にも取り組んでいる。</p>		
実施可能な時期（期間）	実施校と相談		

■実施内容

対象となるプログラム	体験
テーマ (タイトル)	身体を使って、のびのび音楽活動－楽しみながら音感覚やリズム感を育もう－
趣旨・目標 ねらい	<p>コロナ禍が長引き、子どもたちの活動は大きく制限されてきた。このような状況下で改めて音楽の大切さが意識され、活動の機会や充実を求める声も多い。本プログラムでは活動制限があっても、子どもたちがのびのびと活動できるような身体を使った活動を展開する。音感覚やリズム感の基礎を中心に、ボディパーカッション、ボディワーク、アンサンブル等を行い、互いが自然に繋がらうような音楽体験を通して、子どもたちの音楽的な基礎を育むことを目標とする。また本活動は、コロナ禍収束後の歌唱や器楽等の活動展開に繋がるような、音楽活動の基盤、土台作りの一環としても位置付けられる。</p>
全体計画 (案)	<p>音楽の特性に繋がる活動を起点に、音やリズムを中心に4つの対話「自分との対話」「他者（友だち）との対話」「音との対話」「作品や作曲者との対話」を段階的に体験し、音楽の基礎的な力の育みに繋げる。</p> <p>【活動構成案】</p> <p>(1) 音楽の特性に繋がる活動：【テーマ】見えないものを見てみよう。活動：エアキャッチボール、エアー長縄跳び等を体験する。見えないものに目を向け、互いのコミュニケーションの大切さを感じる。</p> <p>(2) 「自分との対話」「他者（友だち）との対話」：【テーマ】どんな音がきこえるか思い浮かべよう。活動：無音の短いパフォーマンスを見て、聞こえてきそうな音を想像し、オノマトペで表現し共有する。</p> <p>(3) 「音との対話」1：【テーマ】身近にある物（例；紙）を使って色々な音を鳴らしてみよう。活動①：色々な音や出し方を見つけ、その面白さを感じる。活動②：音のリレーや即興のアンサンブルを体験する。</p> <p>(4) 「音との対話」2：【テーマ】身体を楽器にして楽しもう。 活動①：ボディパーカッション、簡単なアンサンブルをする。活動②：動きを加え、身体全体で表現する。</p> <p>(5) 「音との対話」3：【テーマ】曲に合うリズムや動きを作ろう。（高学年） 活動：曲を聴いて様子や動きを思い浮かべ、そこから曲に合いそうなリズムや動きを作って表現する。</p> <p>(6) 「作品や作曲者との対話」：【テーマ】曲の思いを感じよう。オリジナル表現を作ろう。（高学年）活動①：打楽器アンサンブルやパフォーマンスを視聴する。活動②：オリジナル作品作りに挑戦する。</p>
実施場所	体育館、音楽室等、平面で比較的広いスペースが取れるところ。

講師等	講師 1 人、スタッフ 1 人
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な備品、設備等 活動に応じて、ピアノ、CD、DVD等の音響設備機器を使用予定。 ・ その他留意点 密にならず、子どもたちがゆとりをもって動くことができるような平 面の活動スペースが望ましい。